

開 心
静 聴
充 満
献 身
奉 仕

日本クリスチャン・アシュラム連盟

春季号

日本アシュラム

United Christian Ashrams of Japan

Spring 1975

教会の再建は

「分ち合う勇氣」から

スタンレー・ジョーンズ

ひどい飢さんがエルサレムとその周辺に起った時、アンテオケの教会は同地方のクリスチャンたちを助けるために『各自の力に応じて』献金することに合意した。初代の教会員は助け合う勇氣を持っていた。彼らの反応は現実的であった。

『各自の力に応じて』と言うのは、一般的な募金ではなく、標準を定めた徹底的なものであった。キリスト信仰において献げることは単なる原則としてではなく『各自の力に応じて』なさるべきで能力のある人ほど実行の責任も大きいのであった。

弟子たちは決議をして書類を通すだけのことをせず、彼らの合意は直に実行される行為となった。彼らは事実を調べて次の集會に報告させるための委員会などを指名して責任を逃れるような延引策をとらなかった。心配は分配となり単なる感情ではなく、行為になった。

これは重要である。あなたが信じている唯一の事は十分に実行できると信じていることであるということが明白にされたのである。信仰は行動である。あなたの信仰はさんびか集會の中で指定して日曜日の朝にくり返すようなものではない。それは週間の毎日、一日の毎時間にあなたが決定するものである。それは働く原

理であって、そうでなければ無価値の原理である。

二つの大切な原理が融合する。ここには信仰と行為とが一つとなり、決議の合意と実行の決断とが一つとなった教会があった。これこそ最上の平信徒の特長である。観念をもって行動する教職はしばしば信仰と行為との間に、決定と実行との間に割目を置こうとする。勿論例外はある。しかしそのルールは極めて明らかに分析であったから、私たちは今日の教会を考える時、実行よりも決議を、決断よりも問答のことを考え勝ちである。今日の教会は議論に馴れて、決断には不馴れとなっている。

ある人がYMCA運動の成功の秘訣は何かと一人の役員に尋ねた時、彼は『その秘訣はこれだと思ふ。つまり私たちは必要(ニード)を知り、そのために祈りそのために出かけて行って何かをするのだ』と答えた。教会の一般的な空気は『我々は必要を知り、そのために祈り、それを論じる』のである。栄光ある例外もあるのといつもとは言えないが、これが諸教会をおおっている空気である。従って私たちは教会を一週間七日を社会への奉仕のために開くことをせず、礼拝を守るために週に一度だけ開くのである。

従って次の大きな靈的覚醒は、平信徒の間から起るべきで、そのリバイバルの特徴の一つは、教会が必要を知り、そのために祈り、出かけて行ってそのために何かをするという空気が教会の中に造られることである。なぜなら信徒の心は最もよく実践的であり決断的であるからで、今日その生活の大部分が関係のない不適当な思想によって『青白く弱っている』教会を再建するためには、この精神の息吹きを必要としている。

アンテオケの教会を思い返す時、彼らは明らかに何の懇願もなしに、エルサレムの飢さんに苦しむクリスチャンたちの必要に答えたのである。『はげしい飢きん』とある。『そこで弟子たちは援助を送ることに決めた』『そこで』という言葉は暗示的である。『飢きんが起った。そこで』と彼らは、何の勧めも何の物乞いも、何の雄弁も聞かずに、必要に応じたのである。彼らは感光されられたからである。彼らは『面倒を見る共同体』であった。ロマ・カトリック信者のフオン・ヒューゲル男爵は『クリスチャンとは互に面倒を見る者である』という賢明な定義を下した。この団体はただ精神的にだけではなく、経済的にも『世話をした』のである。彼らは靈的ニードと物的ニードの間に区別をしなかった。それは人間的ニードであったから、彼らはそれに応じたのである。キリスト教信仰は物質的靈的、精神的、社会的の何れのニードにも応答した。主イエスは全ての人々を教え、医し、給食され、神の国の到来の一

▼連盟は創始者の祈りによって、常に新しい家族の参加

生れたファミリーの全国的な交わりであっている。

発行所 東京都江古田 編者 海老原 高 定価 1000円

▼アシュラム・ピン一個一五〇円 『イエスは主なり』のマーク

部としてそれらを実行されたのである。彼は『さあ私に従って来るなら、あなたがたを医し養なおう』とは言われなかった。医しと養いとは彼らに従わせるえさではなかった。それら自身が人間としての必要に答える目的であった。

主イエスは人間の全体的必要に答えるために来られた。地上に生きた最高の生活、主イエスの生活に来る時、そこに完全な感覚を見出すことができる。

『私が飢えた時に食わせ、獄にいた時に尋ね、病んだ時に見舞い、旅人であつ

『一切を捨てよ』

中国地区委員長
谷本 清

第十二回中国アシュラムは、理事長、高瀬恒徳師を迎へ、去る十一月二十一日(木)から二十三日(土)まで広島市沼田町、広島工業大学山荘に於て開催した。開設以来第十回まで一貫して、E、スタンレー・ショーズ博士自ら主宰して来たアシュラムであった。然し博士がその生涯かけて愛し続けられた印度で、聖徒らしい終を完うされて以来、主なきアシュラムになりかけたが、幸にも、第十一回にはカナダの牧師、ゴルドン・ハンター師が来られ、今又第十二回には日本のホープ、高瀬恒徳先生が来られた。これでもうやく日本のアシュラムが軌道に乗って来た。高瀬師は、ショーズ博士の意を

た時に宿らせてくれた』。正しい人が『いつでしかか』と尋ねると、主は『これらのいと小さい者の一人にしてくれたのは、私にしてくれたことだ』と答えられた。人々が飢えていた時、主も飢えておられ、人々が獄にいる時、彼も捕われ、人々が旅人である時、彼もさびしい旅人である。初代のクリスチャンたちは精神的だけでなく、経済的にも世話をしたのである。私たちはこのような助け合いを示すことができるだろうか。

体して、日本のアシュラム創設に深い祈りと篤い体験に基いて日夜努力しておられる人である。

会場になった、広工大山荘は、広島市の西北、山中に六万坪に及ぶ広々とした森に囲まれて建てられた、鉄筋コンクリート三階建て、ゆっくり百五十名は収容出来る会場である。流川教会員である鶴妻氏(広工大総長)の建たもので、教会の修養会には無条件で提供して下さる。その風光明媚の自然環境と「モニカ」の経営する食堂は我らに取って、神様の特別な賜物である。

今回のアシュラムの特徴とすべきものは、先づ二つを挙げる事が出来る。

一、黙想と恵みの時

この時を導かれた小宮山林也牧師は今治アシュラムの影響を受けて、始めた呉アシュラムの指導者である。その特色は毎朝の聖書の黙想と恵みの分かち合い、而もアシュラム滞在中のみでなく、それ

以後各個教会の教会伝道の中に編み込まれて、教会生活の大きな支柱になっていることである。

二、開心の時と充滿の時

日本アシュラム連盟の総責任を負うて立つ高瀬先生が力を注いで実践しているアシュラムの真髄は「捨てる」ことにある。朝起きて顔を洗うのは一日のごみを捨て、再出発するためである。そのように、我らのうちにたまっている、きたないものをはき出し、捨てる事が再生の第一義である。罪と汚れを一杯につめ込んで隠しているから浮ばないのである。それを思い切って捨てる、そうすれば新生の道が拓ける。それはつらいことである、それは正に十字架につけられることである。「分ち合い」ということは、このような思い切った決断を、神の台前に告白し合うことである。神の御臨在とキリストの執成によって為される共同の祈りである故に、神の教を体得させられる。こうして与えられる赦と新生のうちに、充滿の時が続く、そうしたすばらしい体験のうちに我らは聖霊の御内住を感じ喜びに満ちて山を降って夫々の教会に帰って行った。参加する者総計四十三名、今までのアシュラム中、最も少人数であったが、内容に於て最も大いなるアシュラムであった。スタンレーは「明け渡し」を力説したが、高瀬先生は「一切合切捨てろ」と力説した。この二つは表現の相違、将又アブローチの相違か、私共のアシュラムがこれから深度を増す毎に解決してゆく点ではなからうか。

アシュラムの五大原則(五) 教会への奉仕と伝道

海老沢 宜道

教会とは何か。キリストを信じる者同志の人間的な合意による組織であるかのよう考えている人が可成り多いようだが、それは根本的な誤りである。なぜなら使徒行伝に記されているように主イエスの御霊が一同を一つにした時、つまりコイノーニアが一同の体験となった時に発生した、聖霊による共同体であるからである。主イエスがペテロの信仰告白をよみせられ、その岩の上にわが教会を建てようと言われたことが実現したのである。従て教会の主はキリストであり、教会はそのからだである。私たちはキリストと教会とを区別して考えやすいが、主を信じる者は、教会をも信すべきではないか。

ただ然し欠点多い人間が教会の主であるキリストの主権を冒して、人意的に改悪してきたことは、歴史的な事実であって、悲しむべき人間の罪である。

そこで啓示を受けた人々が悔改めて、この失われたキリスト中心の靈交を教会に復活したいとの祈りの運動が起った。アシュラムはその試みの一つである。

アシュラムによって心を開かれ、キリストへの明け渡しをなし得た者は、主に仕えるのと同時に、否そのためにこそ教会に仕えるはずである。従て教会に満足せず、俗に言う超教派的連合集會にだけ

アシュラムの五大原則

『祈り』と『聖霊』

関西地区実行委員長
後宮 俊夫

第九回関西アシュラムは、十一月四・五日千里山のシオン・ロッジを会場に開催された。参加者二十教会より四十五名。

今回は、アシュラムの講師はイエス・キリストであることをプログラムの上でも表わそうと言うことで、特に講師を置かないで、委員一同と参加者の協力によって守られた。

四日午前十時より、中路委員長の説教にて開会礼拝。同師は、スタンレー・ジョーンズの残したよきものを守り育て、その豊かな恵に与ろうと説き起こされ、主の祈りから主の勧め給うたように、気落ちせずして祈ること、特に今日の教会が祈りを失っている、初代教会のように熱心に祈り求めようと訴えられ、今回のアシュラムの方向を明確に示された。

昼食後、午後一時半より開心の時（後宮実行委員長指導）に一同それぞれ切なる求めを開陳して熱意は高まる。三時半より四分団に分れてファミリー・アワー。夕食後、六時半より清水潔師の司会によって証し

の時を持ち、多くの兄弟の祈禱生活の証しを聞いた。続いて八時より土山牧師の奨励により夜の祈り。『わたしたちはいためられた葦』、煙っている灯心であるが、助けは上から与えられる。その聖霊を豊かにいただけではないかと勧められた。これで第一日のプログラムを終えて就寝。祈りの連鎖は開会の時から守られ、祈りを以てアシュラムが支えられて行った。

五日は『朝はやく、夜の明けるよほど前に』と言うことで、午前五時より早天祈禱会。西条初栄師が、聖霊を求めるべきことを勧められた。六時よりの黙想の時は各自使徒行伝を黙想。七時からの「分かち合い」には平方美代子師の司会で、各自黙想の時に示された恵を分かち合った。九時より中島彰師による聖書講義、ルカ一章一―一三を中心に、聖霊について説かれた。ついで十時半より一時間、二回目のファミリー・アワーが持たれた。朝は断食であったので昼食をおいしくいただく、午後一時より杉田常夫師の指導により充滿の時、それぞれが今回のアシュラムのすばらしい恵を語り、一層の聖霊の充滿を受けた。二時半より辻中昭一師の説教にて開会礼拝を守り、今後のアシュラム運動の進展を

祈って散会した。

準備の不足から、参加者は小教であったが、まさに、主イエスの御臨在の下に、主に明け渡し、御言に聴き、霊の交りを楽しむことが出来た。聖霊の充滿は、むしろ参加者各自の今後の行動において、すなわちその教会への奉仕と伝道、アシュラム運動の各教会や地域での推進によって立証されることと思う。

参加者の多くの者たちが、今回のアシュラムが霊に満ちた甚だ祝されたものであったことを喜び感謝しておられた。委員一同は、主は今も祈りに答えて働いて下さったことに深く感謝し、今後も聖霊の導きの下にアシュラムの充実、進展のために奉仕したいと考えている。

静聴の生活化

道南地区委員長

白川 鄭 二

昨秋十月第五回アシュラムには広島の本谷清牧師を迎えました。日程は日曜日をはさみ、礼拝は各教会で守るという変則で行いましたが、一同の積極的な協力がアシュラムのペースをくずさず守られました。回を重ねるに従い祈りの分団がスムーズに運ばれるようになり落着いた親しみあるよい集りになってきています。谷本師は被爆の体験を（次頁へ）

- (一) 御言への静聴と立証
- (二) 聖霊の啓導と充滿
- (三) 神の国の体験と献身
- (四) 教会への奉仕と伝道
- (五)

熱心で、自分の所属する教会に仕えないことは、その信仰が疑わしいと言われているは、そのからだの一部（手足など）になっただけで、言が肉体となられたように、信仰は霊的共同体となって御栄光を現わすものとなるのである。

『聖霊があなたがたに降る時、あなたがたは力を受けて、地の果まで私の証人となるであろう』と主が言われたようにペンテコステの体験をした者は復活の証人としていかなる困難にもめげず、喜んで力強く伝道のわざに参加して来たのである。また行くであろう。故にアシュラムにおいては聖霊の導きと充滿を頂くことを重じているのである。

教会の使命は礼拝と礼典、宣教と愛のわざ、再臨望（神の国）の三つにまともることができると思う。しかしこれらは便宜上の区分であって信仰は一つである。政治的、経済的、社会的救済を必要とする面が多くありそれらは緊急事であるにちがいないが、その面の働きだけで人類は真に救われるのだろうか。人間は精神的（宗教的）救いを究極において求めていることを知る時、われらは真の救主とその福音を伝えることこそ、彼らに対する真の愛のわざに参与していることになるのではないが、即ち伝道に献身的奉仕をすることが、主に仕え「教会に仕える者になる」（コロサイ一・二五）道なのである。過去の多くの運動が教会を忘れた時に自然消滅して行ったが、アシュラムはあくまでも教会に仕えるものであることを銘記したい。

語られ、あの終末的状況の中で、止める手をふりきってよるめき乍ら人々を助けるために火の中へ帰って行ったある伝道者のことを考えると、どんなにざんげしても足りないと思われざるを得ない。

この開心の時のお話はそれからのプログラムに霊的な基調をうち出し、内容を深めました。またアシュラムにおける静聴がその時だけでなく生活化するように努力すべきことをお教え頂きました。

今後のために考えられることは、更にアシュラムについての認識を衆知させ深めること、部分的参加を絶対になくすこと、開心、明け渡し、静聴の原則を徹底させること、この点は比較的若い信徒の理解が深まってきているので心強い。

第二はアシュラムの原理を教会生活に応用すること。特に静聴を日毎に守り、それを互に分ち合い、励まし合う機会を作りたいと思います。静聴のノートを週毎に交換することも実行してみたいと思っています。

これらのこと、全て聖霊の御助けなしにはできません。どうぞ御加禱下さい。日本のアシュラムによきリーダーの生れんことをお祈りいたします。

アシュラムに出席して

大野キリスト教会
中沢 敏子

ある夏の修養会の講師でいらした横山先生から、十年の教会生活が壁にぶつかった時、アシュラムの集会で新しくさせられた、との証詞を伺い、大変感銘を

受けました。丁度その時、私自身の信仰がふっ切れず悩んでいた時でした。その秋福音の家で集会があるとき、とびつぐ思いで出席させて頂きました。まづ会が始まって驚いたことは、参加者一同が、すべて主の前に、一様にあるということでした。人間の誇り、劣等感、信仰歴による優越さも、すべてとり払われメインスピーカーの話しにききるのでなく、命の泉なる主御自身のみことばにきき、教えられ、さとされ、深く主を味わうことのふんいきで満ちていることでした。みたまによる一同の一致、そこでは一人一人が生命を感じ、一人一人が燃やされ、私としては素晴らしい体験でした。みことばを分かちあった方々とは、まるで十年の知己の様に親しさを覚え、昨年二回目は問題をもって出席いたしました。最後の願、私の考えていた事とは、反対でしたが、はつきりことが示され、感謝で胸がつかまるようでした。何と近く主がおいで下さったことでしょう。アシュラムは、ほんとに魂のそそぎだせる集会です。本年も出席させて頂けるよう願っております。

(関東アシュラム・ニュースより)

ガリラヤ湖畔の

美しいペニエルを
訪ねて

海老沢 宣道

スタンレー・ジョーンズ師が生前から

ぜひガリラヤ湖畔に世界アシュラムのセンターを建てたいと望まれ、現在米国の連盟が中心になって、六〇万ドルを募金しその実現を期しているが、その現地ペニエルをぜひ一度訪れたいと願っていたところ、去三月二十七日聖地巡礼の途上ついにかなえられて感謝に耐えない。

それは湖の西岸テベリアスからカペナムへの中間、道の右手に金網の垣根を廻らし、小さな門の上に小さなペニエルY M C Aの標札が出ていた。中へ入ると実に美しく整えられた庭園で、緑の木々が植えられ、赤や黄色の様々な花が咲き乱れている、管理事務所まで主事に挨拶をして小道を降りると、可愛いチャペルがあり、湖畔に下りる。オリブや椰子の木が繁る木陰には野外礼拝のできるように説教台とベンチが用意されていた。ここには小食堂はあるが、まだ宿舎がないので長期の集会のために、ぜひともジョーンズ博士の祈りに協力すべきである。果して博士が選ばられただけあって、この静かな湖畔で数日または一ヶ月も聖書を熟読し、祈りと静聴に過すならばキリストとの霊交を深められることは確実であると思った。一日も早くこの計画が実現されるようにと心から祈ってカペナムへ向った。

創始者ジョーンズ博士記念

三大事業への献金募集中

故スタンレー兄弟にアシュラムを教えられた世界の友は、生前希望された仕事の中左記三つを記念事業として実行する

ことに決定、予算六〇万ドルを計上した

- ▼第一、世界アシュラム・センターをガリラヤ湖畔に建設。
 - ▼第二、アシュラム未開国への活動費。
 - ▼第三、発祥地サト・タルのセンター強化とクララ・スエイン病院の増築。
- 日本連盟もこれに参加、目標を一万ドルとした。

◎送金方法 振替 東京五〇二五九(名機、江古田教会)利用、「ジョーンズ博士記念献金」と明記御払込み下さい。

献金報告

- (七四年十二月〜七五年三月)
- ◆十万円 島津 昭子(江古田教会)
- ◆五万円 淀橋教会(関東地区)
- 成毛謙次郎(池ノ上教会)
- ◆三万円 大官前教会有志(関東地区)
- 池本金三郎(三摩兄弟団)
- 井本富三郎(ホーリネス)
- 中国地区アシュラム
- ◆二万円 西川口教会(関東地区)
- ◆一万円 小松川教会()
- 三室 泰平(早稲田、関東)
- 沢田 勉(大森めぐみ)
- ◆五千元 内田 武士(鶴巣市)
- 小崎 健二(名古屋、中部)
- 岡田 実(新宿西、関東)
- 山本 栄(日野市、)
- ◆三千五百円 江古田教会、クリスマス
- ◆三千元 安藤 信太(荒川、救世軍)
- ◆二千元 岡田多摩子(新宿西、関東)
- 仁戸田寿子(江古田) 岡崎孝(渋谷) 佐々木雄次(函館)
- 武井啓治(川口)

合計(二二〇) 金四〇二、五〇〇円
累計 金二、〇〇九、八〇〇円
皆さまの御協力で二百万円を突破いたしました。あと約百万円です。各地区共年最後の運動をお願い申し上げます。

▼アシュラムとは故スタンレー・ジョーンズ博士がインドの退修方式を取り入れて開始されたキリスト教の新しい祈禱生活のことである。

所収 12付 道 徳 50円

「アシュラムとは何か」(50円)
「一日アシュラムの守り方」(30円)